

WHO ファクトシート

口腔保健

Oral health

2018年9月19日

重要な事実

- ・口腔疾患は最も一般的な非感染性疾患 NCD であり、人々に、痛み、不快感、外形損傷や更には死亡の原因となっており、その生涯を通じて影響を与える。
- ・世界疾病負担研究 2016 年版 [YM1] では、世界全人口の半分（35 億 8,000 万人）が口腔疾患に罹患し、永久歯の齲蝕（虫歯）が最も一般的と分析されている。
- ・歯を失くす原因ともなる重度の歯周（歯肉）疾患は、世界で 11 番目に多い疾患であると推定されている。
- ・重度の歯の喪失や無歯症（本来の歯がないこと）は、いくつかの高所得国での障害生存年数 YLD の主要 10 原因のひとつであった。
- ・アジア太平洋地域のいくつかの国では、口腔がん（唇及び口腔のがん）が全てのがんの中でのトップ 3 に入っている。
- ・世界の異なる人口グループ間や人生の全過程を通じて、口腔保健での不平等が存在する。
- ・ほとんどの高所得国で歯科治療は、総医療費の平均 5%、自己負担医療費支出の 20% の費用がかかる。
- ・社会的決定要因が口腔保健に大きな影響を与える。加えて、粗末な口腔衛生や不足なフッ素曝露は口腔保健に悪影響を及ぼす。

© World Health Organization

この文章は、日本 WHO 協会が WHO のメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014 年 3 月に WHO 本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Oral health

ファクトシート原文は [こちら](#)